

グリーンニュース 第43号

発行年月日 平成 22年 6月25日

発行責任者

群馬県環境アドバイザー連絡協議会

代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・



「清水寺のアジサイ」

高崎市石原町にある清水寺の石段の両側には300株と言われるアジサイが咲き乱れる季節になると見事です。征夷大將軍坂上田村磨呂が蝦夷征伐で戦死した兵の冥福を祈って開いたと言われていますが、京都の清水寺と同じく、ここにも「舞台」があり市内を一望できます。一般に栽培されているのはほとんどが西洋アジサイですが、一般に花といわれている部分は「ガク」で本来の花は中心部で小さくめだちません

(広報副部長 田中和夫)

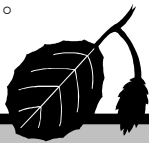
環境政策課からのお知らせ

環境アドバイザー、294名登録（平成22年6月3日現在）

21年度4月より、第8期県環境アドバイザー登録者（登録期間：平成21年4月1日～平成23年3月31日）は、平成22年6月4日現在、294名の方の登録をいただいております。各地域で活躍されています。

本年度も始まったばかりですが、環境アドバイザー事業にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。引き続きよろしくお願いたします。

県では随時、第8期の環境アドバイザーを募集しています。周りの方にもこの制度についてお話しいただき、環境活動に取り組んでいただける方々に紹介していただければ幸いです。



楽しい事が、いっぱいあるようです。

エコムーブ号の仕事でお邪魔をした、県立尾瀬高等学校の「G-nec ネイチャークラブ」の取り組みをご紹介します。

尾瀬高等学校では、自然環境課の卒業生の会(G-NEC)と尾瀬高等学校生徒のボランティア(G-nec クラブ)の皆さんが協力して、地域の子供達などと共に自然遊びや農作業、収穫など自分の手で作物を栽培したり、収穫の喜びや作業の大変さ、楽しさなどの体験活動ができる取り組みを、毎月第3土曜日に行っています。

詳しくは <http://www.oze-hs.gsn.ed.jp/> まで。(参考：県立尾瀬高等学校 HP)

エコムーブ号の専属ドライバーが来たぞ。



県環境政策課 環境サポートセンターへお世話になり、エコムーブ号の運転と、環境アドバイザー事務局を受け持つ事になりました。

長い間、車関係の仕事をしていたので、トラックの運転もお手の物、当然乗用車も得意です。すでに「動く環境教室」などで、8回の出動をしています。エコムーブ号は今まで、サポーターの皆様には運転をお願いしていましたが、アドバイザーやサポーターに専念していただき、運転はお任せください。

昭和28年1月10日生まれの蛇年の57歳

登坂 均(とさか ひとし)です。

県庁にお世話になる前は、群馬県陸運支局で車検場のお手伝いをしていました。趣味は、スキー、モータースポーツ観戦、そして無農薬家庭菜園で野菜を育てることです。最近、テレビなどでニュースになっている、土を使わない野菜作り(水耕栽培とか養液栽培とか言われています)も楽しんでいます。

南ドイツ、蒸気機関車(小型)エクスレ鉄道

・・・文化遺産を守る地域の人々・・・

1株株主

私が関係しているぐんま日独協会の会員で、ドイツ在住経験のあり、現在高崎にお住まいの白倉さんという方から、「南ドイツ、ウルム市南の観光鉄道(狭軌線路の19kmを土曜と日曜だけ走る蒸気機関車)の株主になってくれませんか」と誘いを受けました。大の鉄道ファンであり、好奇心旺盛な私のこと、直ちに75ユーロ(約9,500円)をお渡しして『1株株主』になりました。

そして今回、ドイツのロストックで行われた『全国独日協会連合会総会』出席の折、日程を延長して家内と二人で当エクスレ鉄道の地を訪問した次第です。お世話してくださった白倉さんが事前に連絡しておいてくださったため、“明治以降の友好国日本からの株主・お客様”ということで、大変な歓迎を受け、蒸気機関車の運転席までのせてもらいました。

地域の人々の愛情と努力

私が感動したのは、地域の方々の『愛情と熱い思い入れ』です。そもそも、この列車は、1898年(明治21年)開通したもので、当時は物資の運搬を目的に作られたとのこと。しかしその後の社会情勢の変化から、採算不能となり、1964年(昭和39年)廃止となってしまいました。

ところがこれが復活したのです。私たちを案内してくださった役員さんは、元検察官、責任車掌さんは元大学教授等、と地域ぐるみ体制で列車を運行し、また財政的には、地域の殆んどの家が『1株株主』になってくれたそうです。

驚いたのは、この列車は殆んど森や草原を走りますが、たまに自動車か走る公道を横切ります。その時は一時ストップし、車掌が降りて、手旗で自動車を止めてから、汽車が走り出すのです。踏切には、遮断機や信号はないのです。運行までの警察当局との折衝、安全面での整備や関係機関との調整はきっと大変だったと思います。

進取的且つボランティア思考の向上

考えるだけで、頭が下がる思いです。そして、この楽しみながらの努力・行動を支えているものは、『地域への愛情』ではないか、と感じました。環境問題への対応でも同じですが、昨今の日本は、個人、地域、企業等のエゴが第一番に出てしまい、地域のため、将来のためという進取的思考やボランティア精神が減っているのではないかと改めて感じた今回の小旅行でした。

注記・・・ご希望があれば、当鉄道の株主に・・・ご紹介します。



(環境アドバイザー連絡協議会 代表 鈴木克彬)

わかる紙面づくり

新聞は、皆さんもご存じとは思いますが、読みやすく、わかりやすいが一番ですね。そんな新聞をつくるには、どうしたら良いのか。簡単に要点をあげてゆきたいと思いません。

(1) 割り振りをする

どこに何を入れるか、記事の場所を決め、見だしの位置、写真の位置など決め、入る文字数を数えて原稿を書いたり、頼んだりする

(2) 内容

- ・見だし - - - - 主張。何が言いたいのか、見ただけでわかるような言葉
インパクトのある無駄のない言葉を選ぶ
- ・小見だし - - - - 見だしの補足をする
- ・言いたいこと、大事なことは、大きく印刷し目を引かせる
- ・記事の数 - - - - 入れすぎない
- ・写真の数、大きさ、文章とのバランスを考える
- ・写真の位置、対角線に入れる。目を引く写真を中央に入れる（アイキャッチ）
- ・原稿：when、where、who、what、why、howを入れる

(3) インタビュー

- ・掲載して良いかを聞く
- ・聞きたいポイントを決めておく
- ・大切だと思う言葉、印象的な言葉など、ポイントを書きとめておく
- ・写真は自然な会話のようすを斜め 45° の角度で撮ると自然なようすが撮れる

(4) その他

- ・堅くならないように余白を使うなど、遊びを入れる。囲みを使って変化をつける。

このようなことを考え新聞づくりにトライしていただき又広報部よりお願いする原稿についても以上のようなことを考えて作成してもらえればよろしいかと思えます。

(広報部会 岡本美由貴)

レジ袋の無料配布中止問題のゆくえ

新年度に入り「ごみ部会」では、昨年からの懸案事項である“レジ袋の無料配布中止”に関する動向を見守っているところです。図らずも一部の事業者の不参加によって、この取り組みが足止め状態になってしまいました。

今年度は、あらためて仕切り直しということのようですので、部会としては消費者団体としての立場からも県へ協力しながら“レジ袋の無料配付中止＝有料化”に向け検討を行っていきたいと考えています。

また本案件を検討するにあたっては、昨年提案した“有料化→その売り上げの一部の基金化→環境施策への活用”と言う仕組み作りについて、どうやったら実現できるかについても考えていきたいと思っています。

さらに、引き続き「ごみ処理や分別に関する事例」について、講演会や発表会、現場視察会などもプログラムとして取り入れていければと思います。

(ごみ部会長；須永 徹)

うれしい!おどろき!!高山村での春のひととき

寒暖の激しい春を迎えた去る4月25日、私共の高山村プロジェクトも3年になり、いつものように朝9時30分「大山桜」の咲き始めた共有林で下草刈り、くずのつる切り、植木の植え込みなどを開始後まもなく地元の方々が集まってこられた。代表の一人、大木氏のお話しによると、今日は村長さん以下関係者のお歴々が一同に会し、環境アドバイザーのみなさんに、これまでの御苦勞に感謝と敬意を表したいとお集まりになったとのこと、又さらに今後の活動と成果を上げられることに村民が期待をしている、など延べられ、うれしい、おどろきのひとときになりました。

(参加者荒木村長、平形村議、平形前組合長、桑原現組合長、平形組合役員、大木代表、松井村役場広報担当者)

(自然環境部会長 宮崎亮二)

高山村には、県立ぐんま天文台があります。光環境条例を制定し、よりよい環境で宇宙の不思議や天文の最新の情報などに触れられます。

高山村光環境条例



人工光の増加を抑制し、天体観測に適した環境づくりに努めていくことを目的とし、高山村の美しい星空を守る「光環境条例」を制定しました。

「エコ・フード・プロジェクト」への参加呼びかけ

食糧自給率の低い日本では、海外から多くの食料を輸入し、輸送に膨大なエネルギーコストをかけています。そこで提唱されてきたのが「地産地消」で、地域で取れたものを地域の人が食べれば、輸送に要するエネルギーも少なくすみCO₂の排出量も抑えられるようになります。

また最近では、生産過程で排出されるCO₂の量をラベルに表示する「カーボンフットプリント製品」の取組がはじまり、食品関係でも米や野菜などでCO₂排出量を表示した商品が出回るようになってきました。

部会では、このような動きの中で、新たな企画として、食べ物から温暖化防止を考えていこうと「エコ・フード・プロジェクト」を立ち上げました。

内容として、まず取り組みたいことは、例えばハウスの暖房に自然エネルギーを利用している生産者や、地場産の野菜を提供している飲食店や直売所など、生産から流通、そして食卓にのぼるまで、極力CO₂の排出を抑える取り組みをしている生産者や店舗等の情報を集めます。そしてこれらの情報を消費者に提供し、購入の判断にCO₂排出の少ない商品を選択できるようにしていくことです。

食と環境に関心のある方、ぜひこのプロジェクトに参加し地域の情報を集めてもらえませんか。

(温暖化・エネルギー部会長 小川 仁司)

太田のエコハウスと新田湧水群

新田環境みらいの会では、5月15日（土）に太田市の『エコハウス』と『新田湧水群』の見学会を開催しました。

参加者は26名で午前はエコハウス、午後は新田湧水群の見学を行いました。

エコハウスとは、気候風土や住まい方に応じて自然エネルギーを生かし、身近に手に入る地域の材料を使うなど、環境に負荷をかけない方法で建てる住まいで、太田市のエコハウスは3月に完成し『光・風・緑を生かして、かしこく暮らす』をテーマに家のまわりの環境（樹木）、太陽光（熱）、自然の風、県産材を活用しています。また素焼きレンガを利用した蓄熱・調湿装置が設置されています。当日は環境政策課の石坂係長に詳しく説明をして頂き、普段は入れない半地下室にも入り、蓄熱や調湿に利用している素焼きレンガ等も見学しました。

午後の部は小保方講師の案内で湧水地4ヶ所の見学を行いました。

① 通木湧水地（中世環濠屋敷の様子が伝わる湧水地）

個人屋敷の一角に湧水地があり、屋敷のまわりを2重の堀と土塁で囲んだ環濠屋敷跡で保存状態もよく、貴重な歴史的遺産です。



② 重殿湧水地（国指定の史跡で大川の起点）

③ 矢太神沼（国指定の史跡で石田川の起点）

④ 妙参寺沼（農林水産省選定の《ため池百選》）

参加者の方は現在も良好な状態で保存されている環濠屋敷跡や平地にある1級河川の起点、水中の砂を吹き上ながら湧出する自噴現象等を見学し、くらしと自然のつながりを身近に感じて頂けたようでした。



（環境アドバイザー・新田環境みらいの会 西村 豊）

誰もが楽しめる井野川を目指して

きっかけは川の中まで入りゴミ拾いをしている人を見つけた事から始まりました。その人は高崎地区会の中澤さんでした。私も群馬県環境アドバイザーに登録し高崎地区会に入会して井野川の清掃活動に参加しました。清掃活動範囲は北高から中井野川橋が高崎地区会の予定しているエリアですと話を聞かされました。

2003年3月入会当時、中澤さんとよく井野川へ足を運び雨の日、晴れた日、大風の吹く日、雪の降った日、いろいろな日がありました。一生懸命ゴミ拾いをしました。特に始めた頃はサイクリングロード沿いの土手はゴミが多くあり時間がかかりました。ペットボトル、空き缶、ビン、本、発泡スチロールの箱、その他いろいろ、「なんでこんな物まで」と思われる物がいっぱいあり、回収したゴミを一カ所に集めて置いて高崎地区会の合同清掃日の時に処理をお願いしました。

私達高崎地区会の活動が、きっかけかどうか分かりませんが北高から中井野川橋間の地元の住民のかたがた、他のボランティアの活動もあり一部の区間は草刈や花を植えて非常に美しくなった所があります。こんな風景の所を目にすると高崎地区会に入って活動してきて本当に良かったと思います。会でも「くじら森公園」井野川沿いに彼岸花を植え保護のための草刈、ゴミ拾いをやっています。みんな楽しみながら活動し、いっしょうけんめい作業に精出しています。

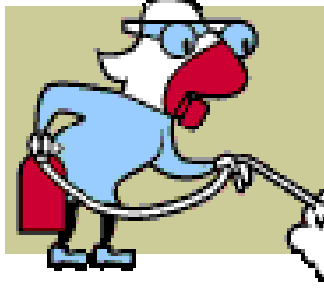


4月中頃又は9月中頃、浜川公園に車をとめ北高から井野川橋間をゆっくり歩いてください。春にはところどころ水仙の花、秋には真っ赤な彼岸花がサイクリングロード沿いに咲き、道案内をしてくれます。みんなが力を合わせて井野川の自然を守ろうと行動している人達の事を少しでも感じ取ってもらえれば一会員として非常にうれしく思いますし、大きな励みになります。美化活動を通じて教えてもらう事がいっぱいあります。これからも「楽しみながら」井野川の清掃美化運動を地元人達と続けてゆき、私の目標でもある「誰もが楽しめる井野川」に少しでも近づければいいなと思います。

(環境アドバイザー 高崎地区会 水井 清)

蚕と農薬そして人間

今年も蚕を飼い始めた。伊勢崎市境の島小学校でも同じ日に掃き立てに成った。学校で、蚕の先生は言われた。「学校の桑以外は蚕に絶対に与えないでください。」と
なぜかと言うと、学校の桑以外は何処で野菜の消毒（殺菌剤・殺虫剤等）をしているか分からないから。確かに自分の所では消毒していなくても、隣でしていれば風によって飛んでくる可能性もあるということらしい。



昨日桑を作っている人達に言われた「拓美さん西側の桑は使わない方が良いよ。西側にはネギの畑が有るから」と、ネギはかなりの消毒をするらしい。つまり私達も知らないうちに消毒薬が体に入ってきてしまう可能性があるのだ。ただ私達人間は体も大きいし、さほど感じなくて済んでしまう。ところが蚕は微量の消毒液でも一発で死んでしまう。私達の体でもそんなことが度重なれば害も出て来るのではないだろうか？

野菜の残留農薬も最近は少なくなってきているが、出来れば農薬を使わない野菜を食べたいものです。

(環境アドバイザー伊勢崎 金井 拓美)

注：この記事を読んで、ご意見等があれば、ご投稿ください (広報部より)

各部会・地域・活動の予定



自然環境部会より
参加申し込み受付中です。

*みどり市の活動による「クリンソウの育成作業の日程が下記の通り決まりました。多数ご参加下さい。

日時、集合場所

6月27日、9時50分、ルート122号(足尾、日光線)やまびこ道の駅10時出発

問合せ他 0277-73-2468、赤石さん

次回(44号)の発行を9月末で予定しています。